

ストリーマ技術による ウイルス抑制・除去試験結果は、 ストリーマ搭載空気清浄機の実使用状態での 効果を実証したものではありません。

先般、技術発表を行いました「ストリーマ技術によるウイルス抑制・除去」の試験結果は、ベトナム国立衛生疫学研究所における、約40cm角の実験用ユニットでのCPE試験とTCID₅₀によって得られた数値であり、ダイキン空気清浄機の実使用状態での効果を実証したものではありません。

ストリーマ技術によるウイルス抑制・除去試験

「ストリーマ技術によるウイルス抑制・除去」能力の確認のため、約40cm角の実験ユニットでのウイルスの除去を測定した結果、「ストリーマ」4時間照射によりウイルスが除去されたことが確認されました。

試験機関 ベトナム国立衛生疫学研究所 (NIHE)

試験期間 2009年9月6日～9月14日

試験対象 ベトナム・ハanoiにおいて入手されたウイルス (HN31868)
ストリーマ放電ユニットを組み込んだ空気清浄装置内にシャーレを設置し評価

試験方法 【CPE (Cytopathic effect) : 細胞変性効果】

約40cm角の実験ユニット内に、ウイルス溶液をペトリ皿に入れ、ストリーマを1～4時間照射する。照射ウイルスと未照射ウイルスを希釈し、MDCK細胞と混合し感染させる。ウイルス感染MDCK細胞を 1.5×10^5 に調整し、インキュベーターで培養する。24時間～7日間培養後の細胞変性を顕微鏡観察で判定する。

【TCID₅₀ (Median tissue culture infective dose) : 50%以上の細胞を感染するウイルス量】
約40cm角の実験ユニット内に、ウイルス溶液をペトリ皿に入れ、ストリーマを1～4時間照射する。照射ウイルスと未照射ウイルスを希釈し、MDCK細胞と混合し感染させる。ウイルス感染MDCK細胞を 1.5×10^5 に調整し、インキュベーターで一晩培養する。培養後ELISA法でウイルス抗原を検出し、TCID₅₀を算出する。

試験結果 「ストリーマ」4時間照射により、ウイルスが100%除去されたことが確認された。

ダイキン空気清浄機に搭載の「ストリーマ放電ユニット」は、空気清浄機内のフィルタで捕集したウイルスに対して効果を発揮します。